

市制50周年記念

第23回

掛川考古展

「よみがえる掛川人の遺産」
～出土品から見る郷土の歴史～



■と き 平成16年9月1日(水)～9月26日(日)

■ところ 掛川市立中央図書館 会議室B

掛川市教育委員会

開催にあたって



掛川には太古の昔から人々が住み着き、その生活の痕跡である遺跡が数多くあります。現在、知られている遺跡は529遺跡あり、県内でも遺跡数の多い市になっています。遺跡は、祖先の人々の生活の様子や社会のしくみなどを知ることができる、いわばタイムカプセルのようなものです。現在の私たちの豊かな生活は、先人たちの苦労の積み重ねの上に成り立っていることから、私たちの生命や文化の系譜をたどることができます。

江戸時代中期の明和9年(1772)5月21日(陰暦)に、現在の掛川市長谷字小出ヶ谷において弥生時代後期の銅鐸が発見され、当時の政務を司っていた掛川藩に届けられました。掛川市では昭和56年(1981)にこの日を記念して、「5月21日を「掛川市考古の日」として定めました。そして、毎年5月に、前年度の発掘調査結果を展示する「出土文化財展」を昨年までに18回、11月にはテーマを決めて展示する「掛川考古展」を22回開催してまいりました。

今回の考古展は、「市制施行50周年記念 よみがえる掛川人の遺産～出土品から見る郷土の歴史～」として開催します。これまでに市内で行われた発掘調査を総ざらいし、掛川の古代史を飾る代表的な遺跡と出土遺物を一同に展示しました。

さて、発掘調査のあゆみを振り返ると、市制の施行された昭和29年から30年代に行われた発掘調査は、地元にある古墳の様子を知ることを目的とした学術調査で、構江の平塚古墳発掘調査や吉岡の春林院古墳の発掘調査などがその例です。それから50年代の初めにかけては、新幹線や東名高速道路、国道1号線掛川バイパスの建設などに伴う調査で、高度経済成長期の公共事業、民間の開発に伴う調査でした。昭和50年代に入ると、個人の所得も増大し、これらに加え、農家の茶樹改植に伴う調査も行われるようになりました。昭和60年代には、市役所関係の大規模な事業も行われるようになり、例えば、エコボリス造成工事や各地区での土地区画整理事業などで、一つの遺跡をまるごと発掘してしまうような大規模調査が行われました。こうした状況は、平成時代に入っても変わらず、掛川城天守閣復元工事や中央図書館の建設に伴う調査が続き、バブル景気による開発ラッシュも重なり、年間の発掘調査件数は著しく増加しました。ここ数年の調査件数は減少ましたが、過去50年間に行われた発掘調査件数は約300件にのぼり、出土した遺物の量はテンバコで約3,000箱を数えます。

平成17年4月1日、現在の掛川市、大東町、大須賀町の1市2町が合併して、新しい「掛川市」が誕生します。今回の展示は、現在の掛川市として開催する最後の考古展になります。

この展示を通じて、先人の足跡をたどり、私たちがこれからも築きあげていく「歴史」への関心が益々高まり、文化財の保存や活用への一助となれば幸いです。

最後になりましたが、本考古展の開催にあたり、貴重な遺物を快くお貸し出しいただいた関係機関及び関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成16年9月

掛川市教育委員会

教育長 木曾 忠義

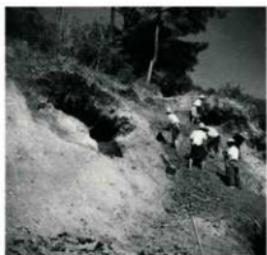
I 初期の発掘調査

市制の施行された昭和29年前後に行われた発掘調査は、現在の調査に比べて小規模で、遺跡の中心のみを調査するものでした。

1 諏訪瓦窯跡 (昭和27年・伊達方)

東山口小学校校庭拡張造成に伴い、同小学校の教諭が中心になって調査されました。

奈良時代の瓦を焼いた窯跡が2基発見され、瓦が出土しました。瓦の一部は東京国立博物館に所蔵されています。今のところ、この窯で焼かれた瓦を使用した建物は見つかっていません。



(現在の様子)

2 長福寺古墳群1号墳 (昭和31年・本郷)

旧原谷村が主体となって、長福寺の境内にある古墳が調査されました。残念ながら、当時の図面や写真は残っていません。

古墳時代後期の直径約17mの円墳で、この横穴式石室墳からは、須恵器や玉類、馬具、鐵鏡などが出土しました。出土品は、現在長福寺が保管しています。



3 平塚古墳 (昭和31年・上西郷)

地元関係者と静岡大学によって調査が行われました。

古墳時代後期の直径約30mの円墳といわれてきましたが、平成10年に確認調査を行った結果、1辺20m～25mほどの方墳の可能性も出てきました。

平成13年に市の史跡に指定されました。



「報告書」より転載

4 春林院古墳 (昭和38年・吉岡)

春林院本堂の裏山にある古墳時代中期（5世紀）の直径30mの円墳です。静岡大学や地元の人が参加して、全面的な発掘調査が行なわれました。

墳丘からは、葺石や壇形埴輪片、主体部からは、鉄劍などの鉄製品が出土しました。

平成8年に和田岡古墳群の一つとして、国史跡に指定されました。

II 1期高度経済成長期の発掘調査

昭和39年の東京オリンピック、昭和45年の大阪万国博覧会が開催されるなど、経済的な高揚が見られる中、全国的に都市基盤整備が行われ、それに先立つ遺跡発掘調査が行われました。

〔公共工事に伴う発掘調査〕

5 宇洞ヶ谷横穴 (昭和39年・下俣)

衛生センター建設工事中に偶然発見され、緊急発掘調査が行われました。

奥行き6.3m、最大幅4.36m、天井高2.6mの玄室中央に、長さ4.5m、中央幅3m、床高0.9mの巨大な棺が造り出されていました。

出土品は、銅鏡、耳環、玉類、須恵器、土師器、馬具、飾大刀、鉄鎌などで、一括して静岡県指定文化財となっています。

古墳時代後期（6世紀後半）の横穴で、遠江に横穴墓制が伝わった当初の姿を伝え、その規模や副葬品から見て、当時の首長墓にふさわしい立派なものです。



土師器と須恵器

6 本村横穴群 (昭和41年・領家・高御所)・岡津横穴群 (昭和41~42年・岡津)



東名高速道路建設工事に伴い、発掘調査が行われました。本村横穴群では、A群、B群合わせて11基の古墳時代後期の横穴を調査し、須恵器や土師器、玉類、直刀、鉄鎌などの副葬品が出土しました。また、岡津横穴群の発掘調査では、古墳時代後期の横穴が、A群で8基、B群で16基、合計24基が発見され、須恵器や土師器、耳環、大刀、鉄鎌、歩兵などの飾金具が多数出土しました。

東名高速道路建設工事関連の発掘調査は、西岡津古墳、向山古墳群、本村古墳群でも行われましたが、遺跡の一部を除き、工事により消滅しました。

7 峯山遺跡・峯山古墳群等 (昭和50~52年・蘭ヶ谷)

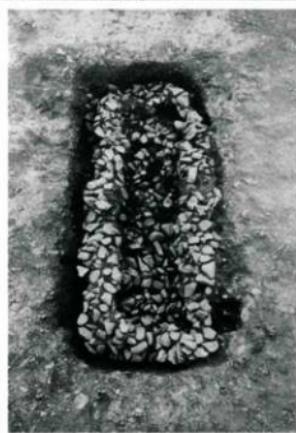


峯山遺跡

国道1号線掛川バイパス建設工事に伴い、掛川市教育委員会が主体となって発掘調査しました。

峯山遺跡と峯山古墳群の調査は、同工事に伴い行われた15ヶ所の遺跡の中でも大規模なもので、弥生時代後期から古墳時代にかけての住居跡、土坑墓、古墳時代中期から後期にかけての古墳、奈良時代の祭祀遺構、鎌倉時代の井戸などが発見されました。

出土品は、弥生時代の土器、石器、古墳時代の土師器、須恵器、奈良時代の須恵器、鎌倉時代の山茶碗などがあり、現在、掛川市教育委員会で保管しています。



次郎丸遺跡

8 山麓山横穴 (昭和51年・下俣)

下俣地区画整理事業に伴い、市教育委員会が発掘調査を行いました。

長さ約6m、幅約4.5mの玄室両側壁沿いに、高さ15cmの棺座が造られていました。横穴の入口は、岩盤をたてかけるようにして塞いでありました。

副葬品には、須恵器、土師器、鹿角装刀子、鉄鐵、馬具など優品が多数あります。この横穴の近くには、豪華な副葬品を始めた宇洞ヶ谷横穴などの横穴がいくつか存在することから、掛川市域にあって、「王家の谷」と呼ぶにふさわしい地域でしたが、残念ながら工事によりすべて消滅してしまいました。

[個人茶園改植・畑地造成等に伴う発掘調査]

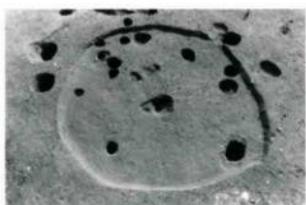
県内でも有数の茶産地である掛川では、個人茶園改植等に伴う発掘調査を数多く行ってきました。

9 秋ノ段遺跡 (昭和51年・原里)

調査では、市内で最も古い約8,000年前の縄文時代早期の押型文土器が出土しました。また、縄文～弥生時代の住居跡が見つかり、土器や石器などが出土しました。



現在の様子



10 中原遺跡 (昭和57年ほか・吉岡・高田)

中原遺跡では、これまでに茶樹改植に伴う調査は3回行われています。

昭和57年の調査では、吉岡大塚古墳の西側で、縄文時代中期（今から4,500年前）の住居跡や埋められた深鉢形土器が発見されました。調査では、土器の他に石器などが出土しています。



11 女高I遺跡 (昭和57年ほか・高田・吉岡)

茶樹改植に伴う女高I遺跡の調査は、地点を変え、全部で5回行われています。

これまでの発掘調査で、女高I遺跡が弥生時代後期から古墳時代中期までのおよそ300年間営まれた集落跡で、発見された住居跡や高床倉庫跡の様子から、大規模であったことがわかりました。出土した土器も多く、それぞれの時代の特徴を示しています。



12 高田遺跡 (昭和62年ほか・高田・吉岡)

高田遺跡地内では、茶樹改植に伴う発掘調査が全部で4回行われています。

昭和62年の調査では、弥生時代後期～古墳時代前期の火事で焼けた家屋が2軒発見され、出土した壺から焼けた米が多量に出土しました。また、平成5年の調査では、頻繁に建て替えられた住居跡が、多数発見されました。

13 天段古墳群・東沢遺跡 (昭和63年・家代)

調査では、古墳時代後期の横穴式石室墳2基と弥生時代後期の土坑墓6基が見つかりました。

市内の古墳時代後期の墓制は横穴墓が主流ですが、この古墳は市内北部に集中する横穴式石室墳の分布域南限にあることが注目されます。古墳からは、横穴墓でも見られる須恵器や土師器、ガラス玉などが出土しました。



天段古墳群



14 新田横穴群D群 (平成8年・高御所)

調査が行われ、古墳時代後期の横穴と住居跡が見つかりました。

横穴は盜掘を受けていましたが、4基発見され、須恵器や土師器、鉄鎌、耳環などが出土しました。また、住居跡が横穴群に近接して発見されました。住居と横穴墓は、同時に存在していた時期もあり、その関係が注目されます。

15 岡津原Ⅲ遺跡 (平成9年・岡津)

調査では、弥生時代中期（およそ2,000年前）の方形周溝墓群が発見され、壺などの土器が出土しました。その他、縄文時代中期（およそ4,000年前）の土器や石器なども出土しています。

岡津原Ⅲ遺跡が複合遺跡であることがわかりました。



別所横穴群

16 災害関係調査

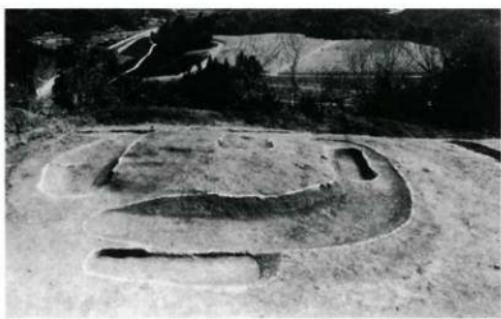
台風などの影響で山が崩れて行われた緊急発掘調査は、別所横穴群（昭和57年・家代）や岩谷横穴群G群（昭和63～平成2年・下垂木）などがあります。

いずれも古墳時代後期に造られた横穴群の調査で、須恵器や玉類、大刀などの副葬品が多量に出土しています。

III 2期高度経済成長期の発掘調査

[民間企業による大規模開発に伴う発掘調査]

17 大六山遺跡 (昭和57年・平成3年・同5年・満水)



大六山遺跡では、民間企業の開発に伴って、これまでに3地点で調査が行われました。

昭和57年の農場建設工事に伴う調査では、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて造墓された方形周溝墓群が18基発見され、多量の土器が出土



しました。この他、注目される出土品として、磨製石剣と打製石槍の石製武器があります。

同じように、武器が副葬された方形周溝墓として、昭和61年城北小体育館建設時に調査された原新田遺跡の例があります。原新田遺跡の例は、鉄製短剣ですが、このような武器の発見は、当時の社会が戦争の起きやすい、緊張した時代であったことを物語っています。

18 殿谷城(高藤城) (昭和57~58年・本郷・細谷・遊家・家代)



ゴルフ場敷地造成工事に伴い、城跡全域の調査が行われました。

殿谷城は、鎌倉時代から室町時代に市内に勢力を誇った原氏の居城として、14世紀前半頃築城された山城です。調査では、主郭を中心に配置された曲輪群、堀切、土塁、掘立柱建物跡などの遺構が発見され、国産の陶器のほか、中国製の磁器などが出土しました。

これらの見つかった品々から原氏の栄華がうかがわれますが、明応6年(1497)に掛川に攻め入った今川氏により滅ぼされました。

19 源ヶ谷遺跡・源ヶ谷古墳群、六ノ坪遺跡・六ノ坪IV遺跡(平成元年ほか・秋葉路)



六ノ坪遺跡



六ノ坪遺跡

「秋葉路」の住宅団地造成工事に伴い、広大な面積を調査しました。その結果、縄文時代から平安時代にかけて、長期間営まれた遺跡であることがわかり、遺構や遺物で貴重な発見が相次ぎました。

中でも、六ノ坪遺跡で見つかった掘立柱建物跡は、建物全体がコの字形に配置され、建物を開むように溝が巡っていました。周囲から奈良時代の二彩・三彩陶器や瓦類、「寺」などの墨書き土器が出土していますので、奈良時代の役所、あるいは寺院に関連する遺跡ではないかと推測されています。

20 溝ノ口遺跡 (平成9年・吉岡)



吉岡にある民間農場・研究棟等の建設工事に伴い、調査を行いました。

調査面積は3,650m²で、遺跡は弥生時代後期から古墳時代前期の期間のものが中心で、住居跡87軒、掘立柱建物跡12棟、方形周溝墓1基、土坑10、小穴2,500余などが見つかりました。住居跡は、5~10軒がまとまっていることが特徴で、住居跡から出土した土器の大半は破片ですが、大量に出土しました。この他、縄文土器も出土しています。

なお、この調査では、市内ではじめて12,000年程前の石器が3点出土しました。

[公共工事に伴う発掘調査]

21 山下遺跡 (昭和58年・平成7年・各和)

市道改良事業に伴い、
2回の発掘調査が行われ
ました。調査の結果、山
下遺跡は袋井市との境に
位置して、両市にまた
がって広がる弥生時代の大
規模な墓地であること
がわかりました。

昭和58年の調査では弥
生時代中期の方形周溝墓
が17基、平成7年の調査
では弥生時代中期から後
期にかけての方形周溝墓
が10基以上発見されました。
これらのことから、
方形周溝墓は約200年間



『報告書』より転載

にわたり継続して造られていたことがわかりました。

方形周溝墓の主体部から、副葬品は見つかっていませんが、周溝からはその当時の特徴をよく示す土器が多数出土しています。

22 新田横穴群・南坪横穴群 (昭和62年・高御所)



市道改良工事に伴い行われた発掘調査で、新田横穴群で4基、南坪横穴群では19基の横
穴が発見されました。出土遺物から横穴が造られたのは、7世紀初頭から奈良時代前半に
及ぶと考えられます。横穴以外では、調査地内から、火葬された骨片の入った土師器の甕
が出土しました。火葬は仏教の影響ではじまったとされ、早い段階に掛川にも伝わってき
たことがわかりました。

横穴からは、須恵器、大刀、鉄鎌、馬具、耳環、玉類などの遺物が多数出土しています。

23 エコボリス（東部工業団地）敷地造成関連調査

深谷遺跡（昭和62～63年・成瀬・淡陽）

調査では、弥生時代後期から古墳時代中期にかけての住居跡28軒、奈良時代の土坑墓1基などが発見され、中でも特に注目されるのが、奈良時代の白銅鏡2枚と和同開珎19枚の発見でした。鏡と銭は同じ穴から出土しており、和同開珎は大麻で包んでいたと思われます。和同開珎が一度にこれだけ多く見つかった例は、静岡県内では他になく、大変貴重なものとなっています。



安養寺遺跡（昭和63年、平成7年・安養寺）



昭和63年の調査で、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて営まれた住居跡75軒、掘立柱建物跡3棟などが発見され、当時の大規模な集落跡であることがわかりました。遺跡からは、土器や打製と磨製の石器などが多量に出土しました。この他、平安時代の建物跡9棟が発見され、周囲の1つの穴からは、灰釉陶器と鉄製板が出土しています。遺構の様子から、寺院跡の可能性を示す遺跡であることがわかりました。

24 掛川城関連の調査

天守丸・本丸地点（平成元～5年） 大手門及びその周辺地点（平成5～7年）
二の丸美術館地点（平成8～9年）など



三日月堀・十霞籠堀周辺の調査

これまでに行った掛川城関連の発掘調査は、掛川城天守閣復元工事及び掛川城公園整備工事に伴う天守丸・本丸・二ノ丸周辺の調査、駅北土地区画整理事業に伴う大手門及びその周辺調査、掛川第一小学校プール改築及び中央図書館建設工事に伴う山下郭の調査、二の丸美術館及び二の丸茶室建設工事に伴う二の丸の調査などがあります。この他、龍華院本堂建築工事に伴う掛川古城の調査も行われました。

天守丸・本丸地点では、天守台の石垣、本丸から天守丸に至る登閣路、建物跡、本丸などの排水設備、暗渠排水施設などが見つかりました。また、本丸下層からは中世の墳墓が発見され、掛川城が築造される前の様子が確認されました。

大手門は、幕末の嘉永7年（1854）の大地震で倒壊し、安政6年（1859）に再建されました。その後、明治時代に焼失してしまいました。調査では、大手門の礎石を支える根固め石が全部で12個見つかりました。さらに、大手門番所小屋のあった痕跡も確認され、大手門と番所小屋の配置の様子を知ることができました。

二の丸美術館建設工事に伴い調査が行われた二の丸地点は、江戸時代には掛川城御殿の台所があった場所です。調査では、これに関連した建物跡や堀、井戸などが見つかっています。この他、江戸時代の建物の下から、弥生時代中期の方形周溝墓や平安、鎌倉時代の土坑などが発見されました。掛川城ができる以前の様子を知ることができましたので、貴重な発見であったといえます。

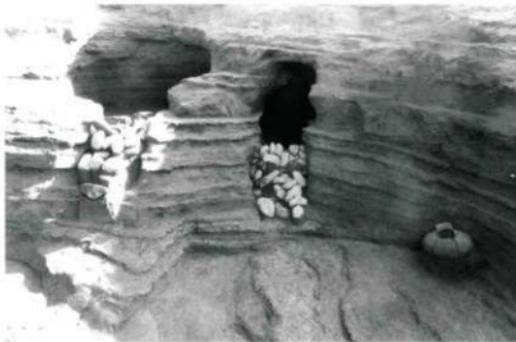
なお、調査では、江戸時代の陶磁器、瓦、かわらけ、木製品、錢貨などはもちろん、弥生時代の土器や石器、平安時代から鎌倉時代の土器などが多数出土しています。

25 東名掛川インターチェンジ建設関連調査

鶴本横穴群・鶴本古墳群・矢崎横穴群（平成3～4年・上張）

平成5年に供用開始された東名高速道路掛川インターチェンジ建設工事に伴い、発掘調査が行われました。

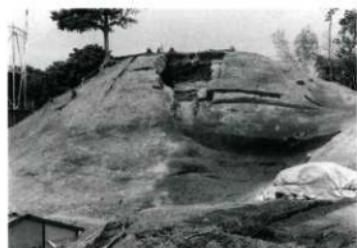
鶴本横穴群では3基、矢崎横穴群では9基の横穴墓が調査され、出土した遺物は、人骨と共に、須恵器、土師器、大刀、鉄鎌、装身具などの副葬品が出土しています。どちらも小規模な横穴群で、造られた時期もほぼ同じころであったことが出土遺物からわかりました。



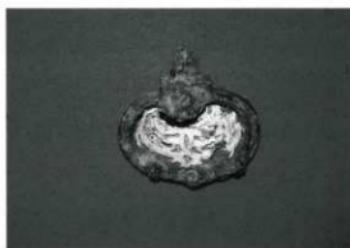
矢崎横穴群

26 新市庁舎建設関連調査

堀ノ内古墳群・堀ノ内横穴群（平成3～4年・長谷）



堀ノ内古墳群13号墳



杏葉

掛川市庁舎建設工事に伴い、発掘調査されました。

堀ノ内古墳群13号墳は、市内唯一の横穴式木芯粘土室墳であるとともに、市内の後期古墳中最大規模の古墳で、銅鏡や玉類、須恵器、土師器、馬具、短刀、鉄鎌など注目される品々が副葬されていました。

堀ノ内横穴群D-1号横穴は、大きさの小さな横穴でしたが、耳環や金銅製の鈴、須恵器、金銅製の鎧や鞘飾りなどがついた大刀、堀ノ内古墳群13号墳と同じデザインの杏葉を含む馬具が出土したことから注目されることになりました。

調査地は、現在、掛川市役所ができるすっかり景観が変わってしまいましたが、今から約1500年前には当地を治めた首長たちの墓が集中する場所であったことがわかりました。

〔土地区画整理事業に伴う発掘調査〕

27 家代土地区画整理事業関連調査

打越遺跡・長沢遺跡（平成2年・家代）

赤渕遺跡・赤渕古墳群・中川原古墳（平成3年・家代）



赤渕遺跡・赤渕古墳群

家代土地区画整理事業では、5ヶ所の遺跡が発掘調査されました。

打越遺跡は、当初その地形から古墳と考えられていましたが、調査の結果、江戸時代から現代にかけての墓地であったことがわかり、墓からは多数のかわらけや陶器、銭貨などが出土しました。

長沢遺跡では、集石遺構が1基見つかりましたが、出土品がないため、いつ頃造られたものかはわかっていません。

赤渕遺跡からは、古墳時代前期の住居跡1軒と溝が見つかり、土器が出土しました。

古墳時代中期の赤渕古墳群は2基が調査されました。1号墳は直径約10mの円墳であることがわかり、住居跡と同じ位置に造られていました。主体部からは、ガラス玉と鉄斧、馬具などが出土しています。2号墳は、1号墳からやや離れたところで発見されました。削平や自然崩落などで古墳の原形をとどめていませんでしたが、1号墳と同じく直径約10mの円墳であることがわかりました。主体部からは、鉄製の短剣が2本出土しました。

中川原古墳は、南北約14m、東西約12mの古墳時代中期に造られた古墳です。主体部からは、副葬された勾玉と管玉が出土しました。

これまで余り知られていないかった家代地区の歴史が、家代土地区画整理事業に伴う発掘調査によって、少しですが明らかになったことは、大きな成果であったと思います。

28 上屋敷・西郷土地区画整理事業関連調査

不動ヶ谷遺跡・不動ヶ谷古墳群（平成6年・大池・下西郷）

不動ヶ谷遺跡関係では、狭い尾根上に弥生時代中期（およそ2,000年前）の方形周溝墓群が形成されていることがわかりました。主体部からは管玉が、墓のまわりの溝からは壺などの土器が出土しました。

同じ尾根上には、古墳時代中期の不動ヶ谷古墳群が存在し、全部で7基発見されました。古墳の主体部からは、鐵鎌や鐵刀、管玉が出土し、古墳の上層からは須恵器が出土しました。



原遺跡（平成6～7年・上西郷）

原遺跡の調査では、次郎丸古墳群1号墳、原横穴群と合わせて約20,000m²に及びました。

原遺跡の調査では、縄文から古墳時代と中世から近世にかけての遺構や遺物が発見されました。縄文時代の土器や石器は、谷へ廃棄された状態で出土しており、弥生時代中期から古墳時代前期にかけての遺構は、住居跡や掘立柱建物跡、方形周溝墓や土器棺墓などがたくさん見つかっています。中世の遺構は、集石墓や建物跡などが見つかっており、近世の遺構では、掘立柱建物跡と区画溝からなる屋敷地などが見つかりました。

次郎丸古墳群1号墳は、主体部から出土した管玉によって、古墳時代中期の古墳であることがわかりました。調査によって新しく発見された原横穴群は、全部で10基の横穴を確認しました。調査では、須恵器や土器器などの副葬品が出土しました。

以上のことから、原遺跡は、複数の時代にまたがる規模の大きな遺跡であることがわかりました。



29 長谷土地区画整理事業関連調査

東ノ谷遺跡・西池古墳・山脇横穴群・向山遺跡（平成7年・長谷）

前坪古墳群6号墳・本村遺跡（平成7～8年・長谷）

本村横穴群E群・浅間神社古墳群3号墳・向山横穴群（平成8年・長谷）

前山横穴群（平成9年・長谷）

寺ヶ谷横穴群（平成10～11年・下俣）

長谷土地区画整理事業関連で
発掘調査した遺跡は、11ヶ所以上
にも及びます。主なものにつ
いて紹介します。

東ノ谷遺跡では、弥生時代後
期の住居跡5軒と掘立柱建物跡
2棟が見つかりました。住居跡
は掘立柱建物跡を取り囲むよう
に配置されていました。住居跡
は5軒のうち4軒が火事にあつ
た家で、屋根に葺いてあった茅
などが発見されました。住居跡
などからは土器や石器などが多
量に出土しています。

西池古墳は、古墳時代中期に造られた東西約19m、南北約15mの円墳です。墳頂部に埋葬
施設が4つあり、それぞれには、大刀、鉄剣、ガラス玉・管玉などが副葬されていました。

浅間神社古墳群3号墳は、古墳時代中期に造られた東西37.5m、南北41.5m、高さ7.3m
の市内最大の円墳であることがわかりました。墳頂部縁辺と古墳の裾からは、埴輪が並ん
だ状態で出土しました。また、長さ約9.1m、幅約2.5mの長大な主体部からは、多種類の
鉄製品が出土しました。出土品から5世紀初頭から前半に位置づけされる古墳であること
がわかりました。



向山横穴群



浅間神社古墳群3号墳

向山横穴群は、3基で構成される古墳
時代後期の横穴群です。横穴内から見つ
かった須恵器などの出土品から、6世紀
前半に造られた市内最古の横穴が含まれ
ることがわかりました。横穴の入口の床
面には、幅約10cmの溝があり、そこへ板
をはめて入口を塞いでいたと考えられる
ことから、古い段階での横穴は板で入口
を封鎖していたのが、新しい時期になると
、円碌で封鎖するようになったことが
わかりました。

30 東名 IC 周辺土地区画整理事業関連調査

矢崎横穴群D群（平成7～8年・上張）

杉谷城（平成7～8年・杉谷）

京德横穴群（平成8～9、12年・上張）

茶屋辻横穴群（平成9～10年・杉谷）

栗下古墳（平成11～12年・上張）

杉谷城は、掛川市立総合病院の東側の丘陵に築城された城です。戦国時代の永禄11年（1568）、徳川家康が、今川氏真の籠城する掛川城を取り囲むように市内各所に造られた城の一つです。調査では、掛川城側からの攻撃を意識し、北側の尾根に堀切などの防禦施設を堅面にした造りとなっていました。

家康の掛川城攻めは半年間だったので、城が使用されたのはわずかな期間でした。そのため、出土品もあまり多くありませんでした。

茶屋辻横穴群では、丘陵の東斜面側で17基、西斜面側で1基、合計18基の古墳時代後期の横穴を調査しました。特徴のある西斜面側の1基の横穴は、複室構造で、副葬品のほとんどを入口側の玄室に納めており、須恵器、土師器、鉄製品、玉類などが出土しました。

東斜面側の横穴で最も大きい13号墓では、玄室内の壁に鉄錆が2本刺さった状態で発見されました。13号墓には、須恵器と土師器が副葬されていましたが、須恵器を模倣した土師器が含まれていました。

この他、副葬品で注目すべきものが発見されました。5号墓から出土した特殊篇壺と呼ばれる須恵器で、全国でも十数例しか見つかっていません。また、7号墓から出土した主頭大刀の柄頭には龍文、はばきには獅子文が毛彫りされていました。いずれも貴重な発見となっています。



杉谷城



茶屋辻横穴群

[国・県営事業関連に伴う発掘調査]

31 県営農地総合開発整備事業等関連調査

地蔵堂遺跡 (平成6~7年・八坂)

八坂別所遺跡 (平成7~8年、同15~16年・八坂)

頭地遺跡 (平成9年・八坂)

メノト遺跡・栗下遺跡 (平成9~11年・八坂)

牛岡遺跡 (平成12~13年・八坂)

農免農道新設工事に関連して発掘調査した八坂別所遺跡では、奈良時代の溝や掘立柱建物、道路構造などが発見されました。道路構造は、地盤の悪いところに、扉材などを転用した木の板を9枚敷き並べ、その上に粘土や砂利などを混ぜた土を交互に積み重ねて突き固めてありました。このような高い土木技術で造られていたことや遺跡周辺の地形などから、発見された道路構造は古代の東海道である可能性が考えられています。また、市内で2ヶ所目の発見となる和同開珎一枚、瓦片や墨書き土器などの出土品があり、調査地周辺に役所や寺院関係の建物が所在していたことが想像されます。

メノト遺跡は、縄文時代と鎌倉時代の遺跡ですが、調査で注目すべき発見があったのは、縄文時代の遺構です。幅の狭い調査地からは、縄文時代後期のドングリの貯蔵穴が20基も発見されました。それぞれの貯蔵穴の底や側面には、草や木で編んだ編物が使用されていました。編物は、現地から取り上げて、保存処理しましたので、今でも見ることができます。堅果類などの木の実の加工に使用した石器やドングリなどの殻が貯蔵穴の周辺からたくさん出土していることから、この場所が木の実の加工場であったと想像されます。

この他、栗下遺跡から出土した主なものに、縄文時代の土製耳飾り2個や石棒など、珍しい品々があります。

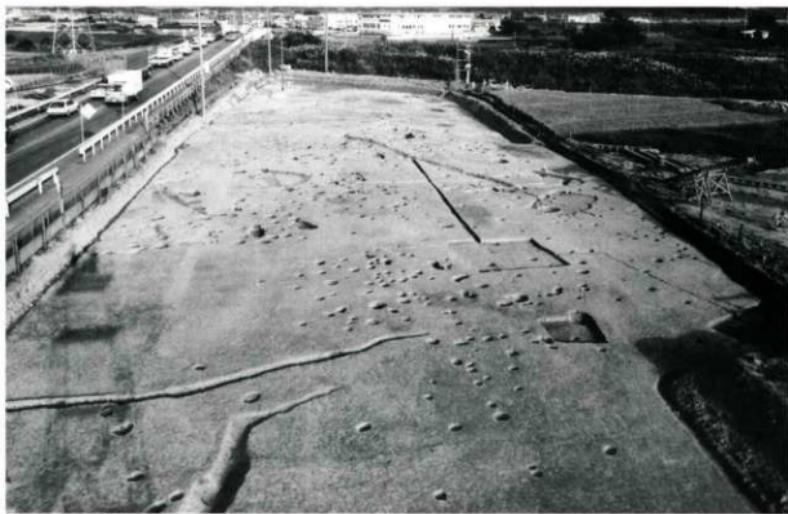


メノト遺跡



八坂別所遺跡

32 原川遺跡（昭和57～62年・領家）



「報告書」より転載

国道1号線袋井バイパス建設工事に先立ち、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が発掘調査を行いました。

遺跡は沖積地に立地しており、調査では、弥生時代中期から江戸時代にかけての遺構や遺物が発見されました。

弥生時代中期の遺構として、掘立柱建物跡8棟や土器棺墓6基、土坑、溝などが見つかっています。原川遺跡は、市内で発見された弥生時代遺跡の中でも最も古い時期のものであることから、市内で最初に稲作が始まったと言われています。なお、市内ではこの時期の集落で、沖積地に営まれていることがわかった例はありません。

古墳時代中期から後期にかけての遺構は、竪穴住居跡8軒と掘立柱建物跡13棟、土坑や溝と古墳があります。古墳は、中期に造られたもので、南北推定10.8m、東西約11.7mの大きさです。古墳の周溝からは、円筒埴輪と人物・馬・家といった形象埴輪が出土しています。

奈良～平安時代の遺構では、住居跡1軒、掘立柱建物跡4棟、溝、井戸跡、土坑などが見つかっています。遺物は、須恵器、土師器、灰釉陶器、緑釉陶器、円面鏡、墨書き土器などが多く出土しており、古代の佐野郡衙（役所）の機能の一部を担っていたと考えられます。

また、江戸時代には、掛川と袋井の間の宿としての集落を形成しており、陶磁器類が大量に出土しました。

33 国道1号線日坂バイパス建設工事関連調査

牛岡遺跡（平成2～3年・八坂）

向畠遺跡・頭地遺跡（平成2年・八坂）

清水遺跡・水井遺跡（平成4～7年・日坂）

調査は、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が行いました。

牛岡遺跡では、奈良時代の住居跡1軒、奈良時代から江戸時代にかけての掘立柱建物の柱穴が1000基以上が見つかりました。掘立柱建物に伴う各時代の遺物の出土量から、一定地域内に存在した集落の盛衰を見ることができます。

また、奈良時代集落の

下層から、縄文時代中期を中心とする土器や石器などが多量に出土しました。出土した土器には関東や近畿、中部高地といった様々な地域のものがたくさん含まれており、その時代における人々の交流関係を示す資料として注目されています。

頭地遺跡の調査では、奈良～平安時代の遺構や遺物が見つかりました。中でも、平安時代のものと考えられる石組遺構は、湧水を利用した井戸ではないかと推測されています。

また、奈良時代の須恵器の種類に、通常の集落跡からは出土しない壺などが含まれています。

清水遺跡では、鎌倉～室町時代の宿と江戸時代の日坂宿に関連する遺構と遺物が見つかりました。江戸時代後半の東海道日坂宿の町並みを残す建物跡も確認され、地元の志戸呂産の陶磁器などが出土しました。

水井遺跡では、日坂宿の茶毬跡が調査され、六道鏡と考えられる鏡貨と陶磁器が出土しました。鏡貨は火を受けており、火葬とともに焼かれたと思われます。



向畠遺跡
『年報』より転載



清水遺跡
『報告書』より転載

34 小笠山総合運動公園関係建設工事関連調査

居村古墳群・居村遺跡（平成7～8年・平野）

領家遺跡・梅橋古墳（平成10～12年・篠場・平野）

調査は、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が行いました。

居村古墳群では、古墳時代後期の横穴式石室墳を3基発見し、調査しました。市内では、この時期の墓制は横穴墓が主流ですが、わずかながらこうした横穴式石室墳が造られています。古墳からは、須恵器、土師器、大刀、鉄鎌、耳環、玉類などの副葬品が出土しました。

居村遺跡は、古墳と同じ丘陵上に所在し、弥生時代中期から古墳時代前期にかけての集落跡であることがわかりました。住居跡や掘立柱建物跡、土器棺墓などが確認され、たくさんの土器が出土しています。

領家遺跡は低地に広がる遺跡で、調査では弥生時代中期から近世にかけての造構や遺物が発見されました。出土遺物の様子から、弥生時代中期から古墳時代前期にかけては、集落が継続して営まれていたことがわかりました。弥生時代中期の土器棺墓が見つかり、一部が墓域として利用されていましたが、後期になると、住居や掘立柱建物が建てられ、居住域に変化したことがわかりました。また、この時期に掘削された断面がV字状の溝が見つかり、集落を巡る環濠である可能性が示されました。



居村古墳群・居村遺跡
「報告書」より転載

35 第2東名高速道路建設工事関連調査

宮ノ沢遺跡（平成12～13年・大和田）

大和田遺跡（平成12年・大和田）

平島I・II・III遺跡（平成12～13年・平島）

角庵I・II遺跡（平成12年・寺島）

上ノ平遺跡（平成12～14年・寺島）

調査は、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が行いました。

これらの遺跡の多くは、今回の調査で新しく発見された遺跡で、これらの遺跡発見によって、掛川市北西部地域における古代史が明らかになりました。

中でも、上ノ平遺跡は標高100mほどの丘陵平坦面に広がる弥生時代後期から古墳時代前期にかけての大集落跡で、住居跡が約160軒、掘立柱建物跡が約120棟、方形周溝墓が2基見つかっています。また、外側に円形に巡る溝を伴う住居跡が約20軒も発見されており、一般住居との違いが注目されています。

土器、石鎌、玉類なども多量に出土しています。



上ノ平遺跡
「年報」より転載

IV 国指定史跡 和田岡古墳群

和田岡古墳群は、市内西部を南流する原野谷川により形成された河岸段丘上にあり、南北約2.5km、東西約1kmの範囲に4基の前方後円墳、16基の円墳、方墳と考えられる古墳が3基確認されています。

これらの古墳のうち、各和金塚古墳、瓢塚古墳、吉岡大塚古墳、行人塚古墳の4つの前方後円墳と円墳である春林院古墳は、5世紀代に造られた大型の古墳で、中央のヤマト王権と地方豪族との関係を知る上で、またこの地域の歴史を研究する上できわめて重要な古墳群であることから、平成8年3月29日に国の史跡に指定されました。

各和金塚古墳は、全長66.4mで、後円部と前方部に円筒埴輪が巡り、墳丘斜面全体に葺石が敷かれています。後円部中央にある主体部は、昭和49年に盗掘にあいましたが、その後、昭和55年に測量調査と主体部の発掘調査が行われました。主体部は川原石を積んだ堅穴式石室で、鉄劍、鉄鎌、鉄鋸、短甲などの武器・武具の他に、斧や鎌の形を模倣した石製品が出土しています。

瓢塚古墳は、全長63mで、墳丘全面に葺石が敷かれ、円筒埴輪が巡っています。明治30年代に発掘され、鉄鎌3、銅鏡2面、勾玉や管玉などの玉類が出土しました。昭和53年に測量調査を行っています。

吉岡大塚古墳は、全長55mで、帆立貝形をした前方後円墳です。墳丘斜面には二段に葺石が敷かれ、後円部に円筒埴輪を確認しています。古墳の周囲に、幅11.4mの溝が巡っているのが、この古墳の特徴です。他の古墳同様、昭和54年に測量調査を実施しています。

行人塚古墳は、全長43.7mで、前方部は太平洋戦争時に削り取られています。これまでのところ、古墳に関する出土品がないため、造られた正確な時期はわかつていません。昭和58年の発掘調査で、周溝を発見しています。

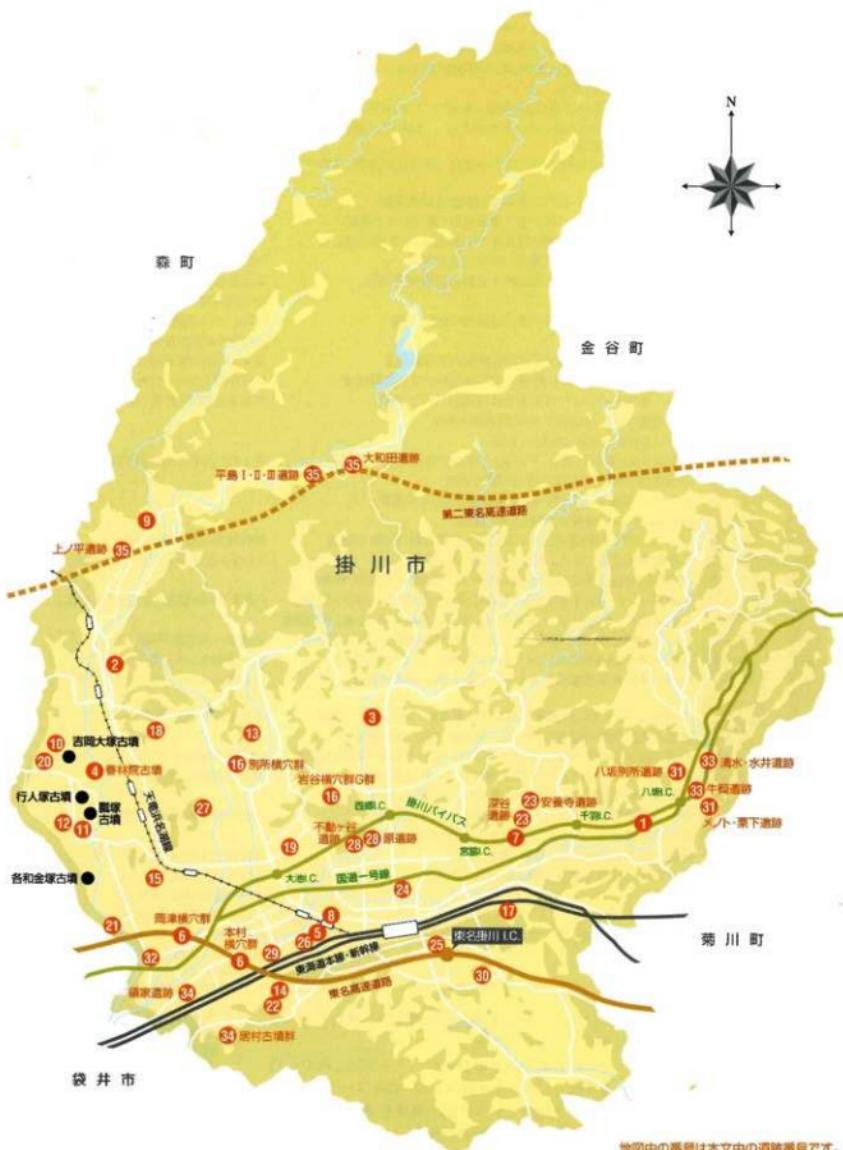
春林院古墳は、昭和38年に全面発掘調査が行われています。(1ページ参照)

和田岡古墳群は、現在、考古学公園整備に向けて、史跡指定地の公有化が進められています。

この他に、国史跡和田岡古墳群に関連した古墳群として、行人塚古墳の北側に市指定史跡東登口古墳群が所在しており、今後の調査が待たれます。



遺跡位置図



地図中の番号は本文中の遺跡番号です。

掛川市内における発掘調査のあゆみ

年 号	主な遺跡と発掘の歴史	掛川市のできごと
1952 昭和27	東山口小学校地拡張により調防瓦窓跡(伊達方)調査	掛川市誕生(昭和29)
1956 31	旧鹿谷村にて長福寺古墳群1号墳(本郷)発掘調査	旧掛川市庁舎完成(昭和31)
1963 38	静岡大学により平塚古墳(上西郷)の学術調査実施	掛川城太鼓櫓などが市指定文化財(昭和35)
	静岡大学により春林院古墳(吉岡)の学術調査実施	
	丈山横穴(高御所)発見	衛生センター完成(昭和40)
1964 39	市衛生センター敷地造成により宇洞ヶ谷横穴(下保)発見	
1966 41~42	東名高速道路建設工事に伴い本村横穴群(高御所)、岡津横穴群B群(岡津)などを調査	掛川市歌制定(昭和42)
1967 42	雇用促進住宅団地建設に伴う天王山遺跡・天王山古墳群(下西郷)の発掘調査	宇洞ヶ谷横穴出土遺物が県指定文化財(昭和43)
1969 44	化学工場建設に伴い高代山古墳群(細谷)を発掘調査	「生涯学習都市宣言」を行う(昭和54)
1974 49~51	国道1号線掛川バイパス工事で秦山遺跡(箇ヶ谷)など調査	富士見台公園に「鍛錬の碑」建立(昭和54)
1975 50	中央高町などの土地区画整理事業で山麓山横穴(下保)発見	掛川城御殿が重要文化財指定(昭和55)
1976 51	森ノ段遺跡(原里)で掛川最古の押型文器発見	掛川バイパス開通(昭和56)
1977 53~55	各和金塚古墳(各和)など和田岡古墳群の測量調査実施	「掛川市考古の日」の制定(昭和56)
1981 57	民間農業研究所建設に伴い大六山遺跡(満水)調査	第1回「生涯学習センター完成(昭和58)
1982 58	中原遺跡(吉岡)の調査で4,500年前頃の住居跡発見	市立総合病院(杉谷)完成(昭和59)
57~58	ゴルフ場造成工事に伴い殿谷(高藤)城(細谷)など発掘調査	第1回「出土文化財展」開催(昭和61)
1983 58~61	国道1号線袋井バイパス工事で秦川遺跡(原川)調査	
58	山下遺跡(各和)の調査で方形周溝墓群発見	
1985 60	高地にある踏道遺跡(満水)の調査	
1986 61	八景山古墳・原新田遺跡(下西郷)で環濠や鉄劍発見	
1987 62	市道建設で南評横穴群B群(高御所)調査	
62~63	エコボリス造成工事に伴い深谷遺跡(箇ヶ谷)など調査	
62	河川改修に伴い梅橋北遺跡(徳泉)調査	
1988 63	グリーンハイツ団地造成工事に伴う桶ヶ谷横穴群(本郷)の調査	新幹線掛川駅開業(昭和63)
1989 平成元~13	天守閣復元工事などによる掛川城(掛川)の調査	オレゴン生涯学習村設立(平成元)
元~2	「秋葉路」造成工事に伴い源ノ谷遺跡・六ノ坪遺跡(秋葉路)調査	「地球・美感・德育」都市宣言(平成2)
1990 2	県教育センター「あさる」建設工事に伴う鳥飼横穴群(上張)の調査	
2~3	東名掛川インターチェンジ建設工事に伴う谷横穴群(上張)など調査	
2~6	国道1号線日坂バイパス建設工事に伴い向畠遺跡(八坂)など調査	
1991 3~4	市役所新庁舎建設工事に伴う堀之内古墳群(長谷)などの調査	
1992 4~6	駿北土地区画整理事業による大手門及び周辺の発掘調査	
1994 6~7	上屋敷・西郷土地区画整理事業に伴い原遺跡(上西郷)など調査	掛川城天守閣開門式(平成6)
1995 7~10	長谷土地区画整理事業に伴い東ノ谷遺跡(長谷)など調査	和田岡古墳群が国史跡指定(平成8)
7~10	小笠山総合運動公園建設関連工事に伴い居村古墳群(平野)を調査	現市庁舎落成(平成8)
7~12	東名掛川IC周辺土地区画整理事業に伴い杉谷城(杉谷)など調査	
1997 9	民間種苗会社研究棟建設に伴う溝ノ口遺跡(吉岡)調査	二の丸美術館開館(平成10)
1998 10	東山口農地整備事業に伴いメト道路(八坂)など調査	掛川市史編纂事業完結(平成11)
1999 11	掛川東高校移転工事に伴い菖蒲ヶ谷遺跡(久保)など調査	人口8万人達成(平成12)
2000 12~14	県道新設工事に伴う金山遺跡(原里)調査	中央図書館開館(平成13)
	第2東名高速道路建設工事に伴い宮ノ沢遺跡(大和田)など調査	二の丸茶室開館(平成14)
2003 15	農免農道整備事業に伴い八坂別所遺跡(八坂)の調査	総合体育馆「さんりーな」完成(平成15)
		歩行文化・スローライフ・報徳文化都市宣言(平成16)

文化財愛護シンボルマークは、文化財愛護運動を全国に推し進めるための旗じるしとして、昭和41年5月に定められたものです。

このシンボルマークは、ひろげた両手の手のひらのパターンによって、日本建築の重要な要素である斗栱(ときょう=組みもの)のイメージを表し、これを三つ重ねることにより、文化財という民族の遺産を過去、現在、未来にわたり永遠に伝承してゆくという愛護精神を象徴したものです。



文化財愛護シンボルマーク